

「診療体制」と「医療環境」

当院では、産婦人科医、助産師、小児科医、新生児集中治療室看護師が密に連携を取り、お母さんと赤ちゃんにとって安心・安全な環境を作ることをスタッフ一同心掛けています。

産婦人科には、令和4年10月1日現在4人の常勤医（うち日本産科婦人科学会専門医2人）がおり、24時間の分娩並びに産科救急疾患に対応しています。

また、帝王切開時における麻酔・全身管理は麻酔科医師が行います。

夜間や土・日・祝日・年末年始における緊急帝王切開の際も麻酔科医師の呼び出し体制を整備しています。

病室は、産科、小児科とNICU（新生児集中治療室）を同じフロアに集中配置し、正常分娩はもちろん、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、切迫早産、多胎、前置胎

盤などを発症している妊産婦さんや緊急母体搬送などにも対応しています。

また、糖尿病・腎疾患・甲状腺機能異常・高血圧・精神科疾患などを発症している場合は、妊娠中から産褥期に至るまで院内の各科専門医と連携して治療を行い、退院後も継続して治療が必要な場合は、それぞれの診療科からかかりつけ医に紹介させていただきます。総合病院ならではの連携した診療を行うことで、より安心で安全な妊娠・出産・育児のサポートを提供することを目指しています。



分娩室

産科と小児科が連携した周産期チームでの対応

生まれた赤ちゃんは、すべて小児科医が診療を行い、入院が必要となった場合には、NICU（新生児集中治療室）で治療を行います。当院の新生児集中治療室では在胎30週、1,000g以上の赤ちゃんの治療が可能です。30週未満や1,000g未満の赤ちゃんに関しては、東海大学医学部附属病院や神奈川県立こども医療センターなどの高次医療機関に治療を引き継ぐようにしています。



NICU・GCU



産科・小児科の医師、助産師など様々な職種が連携して対応します。

すべてのお母さんと赤ちゃんの幸せを願い、心をこめて支援します

安全で安心な出産のために

当院では、お母さんが主体的に妊娠期・分娩期・産褥期を過ごせるように助産師による保健指導外来を実施しています。身体のこと、生活のこと、家族のこと、育児のことなどお母さんと赤ちゃんに寄り添い、一緒に考え、お母さんの良き相談相手となり、安心してマタニティライフを過ごす事ができるように支援しています。

産科病棟スタッフは全員が助産師で、お母さんと赤ちゃんの安全を守るために、常に良質な助産やケアなどの対応ができるように努めています。

当院は、自然分娩を基本としており、必要に応じて芳香浴なども行いながら、リラックスした環境で出産できるように心掛けています。妊婦検診や保健指導を通して助産師がお母さんと関わることでお互いに信頼関係を築き、経膈分娩・帝王切開術のいずれであっても、お母さん自身が心から満足できる出産となるようにお手伝いします。

希望者を実施している
個別母親学級



安心して育児をするために

育児に関する心配事は助産師にご相談ください。

出産後は、自宅に帰っても安心して育児に臨めるように、入院中は母児同室とし、おっぱいのこと、赤ちゃんのことなど、心配事に助産師が対応しています。

産後健診は、2週間健診で育児相談と心の健康診断、1ヶ月健診で産科医師による産婦の健康チェックと小児科医師による新生児の発育チェックを行います。

母乳外来では、おっぱいトラブルに限らず育児全般の相談を行っており、他院で出産のお母さんでも対応しています。

病院を離れたあとも、引き続き支援が必要な方に対しては、継続した支援ができるように、医療ソーシャル・ワーカーや地域の保健師・助産師と連携して支援ができるように取り組んでいます。

分娩室または手術室で、
お母さんと赤ちゃんの最初の
面会写真を撮影しプレゼント！



栄養バランスを考えたおいしい食事の提供

管理栄養士が、産後の回復を助ける栄養バランスを考えた献立を作成しています。

また、見た目や味にもこだわること、安心して楽しい入院生活を過ごせるように、心を込めて食事を提供します。



調理師の個性が光る☆お祝い膳



ホットとひと息♪ティーサービス